

農業振興による経済規模の拡大を目指して



農業分野を取り巻く状況は、高齢化による農家の減少や自然災害の発生、米価の低迷など厳しい状況が続いています。市では、これらの課題を克服するため、農家の頑張りを応援し、農業の活性化による地域経済の安定的成長と経済規模の拡大を図る施策を推進しています。シリーズ市政の「今」第26回は、農業振興による地域経済の発展を目指した取り組みについてお知らせします。



▲出荷に向けた万願寺甘とう箱詰め作業 (昨年の様子)

「万願寺甘とう」過去最高の販売高

市内の万願寺地区で栽培が始まったとされる万願寺とうがらし。品質改良を重ね、肉厚で辛みのない「万願寺甘とう」は、本市を代表する特産物として現在「J A京都」の「管内で栽培され、その半数が市内の農家で栽培されています。昨年栽培農家の頑張りで安定した生産と首都圏への出荷の拡大、通販、全国展開のうどんチェーン店への出荷などと併せ、「J A京都」の「販売戦略が実り、過去最高の販売高を記録。前年の2億5千万円をはるかに超えた3億4千万円を記録しました。昨年12月の生産者大会では、3年後には4億円の突破を目標に、さらに信頼される産地づくりを目指すことを誓いました。

舞鶴のお茶 4年連続の日本一
昨年8月25日〜28日に静岡県で開催された「第69回全国茶品評会」かぶせ茶の部で、本市が4年連続の「産地賞」（団体の部・1位）を受賞。27年度は、全国から102点が出品され、外観や香り、滋味などが審査されました。4年連続日本一の受賞は、全国で2例目となっています。また、個人の部でも近年、本市の生産者が上位入賞を果たしています。
舞鶴のお茶は、その多くが由良川沿岸で栽培され、茶種は、玉露、煎茶、番茶、てん茶とかぶせ茶の5種。舞鶴のお茶の特徴は、お茶を生産する農家が「舞鶴茶生産組合」を組織し、統一的な肥培管理方針を定めることにより、鮮緑色の色沢があり、うま味、香気が調和したむらのない安定した良質なお茶として全国で評価されています。

東京で舞鶴の食をPR

昨年6月1日〜30日の1か月間、グランドハイアット東京で「舞鶴の食」をPRする「舞鶴フェア」を開催。万願寺甘とうや



▲舞鶴の食を東京でPR



▲表彰を受ける河田勝臣・舞鶴茶生産組合長と多々見市長 (昨年11月14日)



▲「担い手養成実践農場」で新規就農者をサポート



▲ほ場整備が進む丸田地区



▲中丹地域有害鳥獣処理施設が竣工 (昨年8月30日)



▲地域おこし協力隊として働く山本未佳さん

お茶、水産物など本市自慢の食材を用いたメニューを提供しました。また、南青山などの高級料理店で、舞鶴の食材を紹介する「シェフマッチング」を実施し、舞鶴ブランドの農水産物出荷拡大に向けた取り組みを行っています。

将来を見据えた農業振興

市では、農家所得の向上と農村地域の活性化を図るためのさまざまな取り組みを進めています。付加価値の高い農産物の生産振興では、本市発祥の京のブランド野菜である万願寺甘とうをはじめ、京の伝統野菜である佐波質だいこんなどの安定出荷、生産拡大を推進。

また、5年後、10年後の農村の将来を見据えた未来の設計図である「人・農地プラン」を軸とした農地の集積・集約化や集落営農組織の法人化など組織強化による経営規模の拡大を促進。ほ場整備、用水路などの農業基盤の整備にも取り組んでいます。

さらに、地域の担い手となる新規就農希望者がスムーズに就業できるようJ Aや地域のベテラン農家などと連携を強化し、地域農業を守るための支援を行っています。

一方、依然として深刻な状況にある有害鳥獣被害に対しては、侵入防止柵の支援や捕獲の強化に努めるとともに、中丹3市が共同で利用する有害鳥獣の焼却処理施設を昨年、福知山市に設置し、埋設にかかる手間の低減を図るなどの対策に取り組んでいます。

災害に強い農場づくり

平成25年9月の台風18号と平成26年8月豪雨による2年連続の洪水で甚大な被害を受けた由良川流域において、離農・離村によって主要産業である農業の衰退や人口減少による地域の空洞化の恐れがあるため、就農者の災害に対する不安を軽減し、安心してハウス園芸農業に取り組む施策を推進。新たな農地の確保や冠水被害の受ける農地のかさ上げ改良への支援を行う災害に強い農場づくりをサポートしています。

今年度は、浸水の恐れがない地域に新たにハウス集積地を確保する具体的な方針や地域と生産者が共存するためのルールづくりなどについて検討を行い、安定した農業経営と生産振興に取り組んでいます。

加佐地区の農業・農村活性化事業

加佐地区では、「心豊かに住み続けられる加佐づくり」を目標として、大庄屋上野家に「加佐地域農業農村活性化センター」を開設するとともに、「地域おこし協力隊」を配置しました。今後、農業体験などの田舎体験モデル事業や農家レストランなどの農村ビジネス事業など都市住民の視点と技能を取り入れた手法で、攻めの農業を核に田舎の魅力づくりを展開するとともに地域の魅力発信に努め、移住・定住促進など農業・農村の活性化を支援していきます。